

令和8年上半期（1～6月）の火災概況（速報） ～火災件数が過去10年間で最多 夏場も火災に御注意ください～

川崎市消防局では、令和8年上半期（1～6月）の火災概況（速報）を取りまとめました。

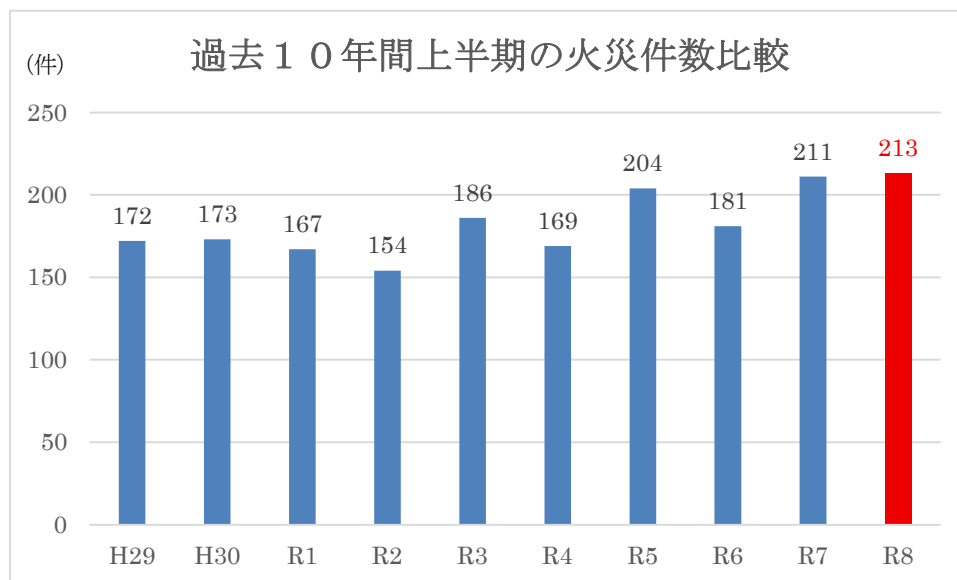
令和8年上半期の火災件数は213件となり、前年同期比で2件増加し、過去10年間で最多となりました。一方、火災による死者数は6人で、前年同期と比較して3人減少しました。

火災原因は、「たばこ」が37件で最も多く、次いで「こんろ」が30件、「放火（疑い含む）」が26件、「電気機器」が24件、「配線器具」が22件となっています。

川崎市消防局では、市民の皆様に住宅用火災警報器の適切な維持管理や電気火災対策の徹底など、火災予防への一層の注意を市ホームページ等で広く呼び掛けています。

1 火災概要

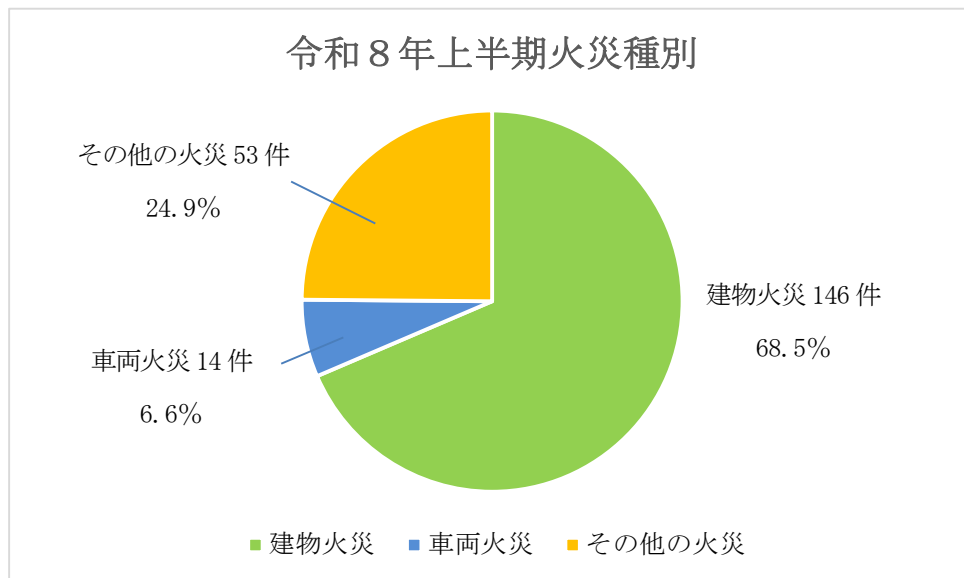
令和8年上半期の火災件数は213件で、前年同期（211件）と比べて2件増加しました。平成29年以降の上半期の火災件数では最多となっています。



2 火災種別

火災種別の内訳は、建物火災146件（68.5%）、車両火災14件（6.6%）、その他の火災53件（24.9%）でした。

前年同期と比較すると、建物火災が13件増加、車両火災が2件減少、その他の火災が9件減少となっています。



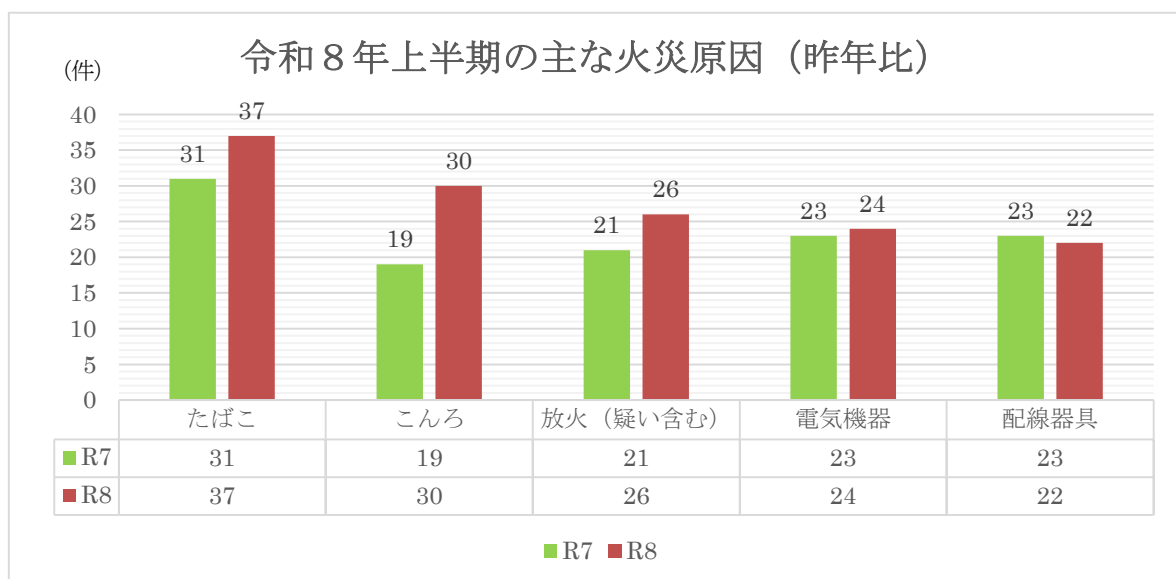
また、建物火災 146 件のうち住宅火災は 87 件で、内訳は共同住宅が 51 件、専用住宅が 26 件、複合用途建物の住戸部分が 10 件となっています。

3 火災原因

火災原因の上位 5 項目は次のとおりです。

- 1 位 たばこ 37 件（前年同期比＋6 件）
- 2 位 こんろ 30 件（同＋11 件）
- 3 位 放火（疑い含む） 26 件（同＋5 件）
- 4 位 電気機器 24 件（同＋1 件）
- 5 位 配線器具 22 件（同－1 件）

電気関係（電気機器 24 件、配線器具 22 件、電話・電灯等の配線 13 件、電気装置 5 件）をまとめると 64 件となり、全体の約 3 割を占めています。



4 火災による死傷者

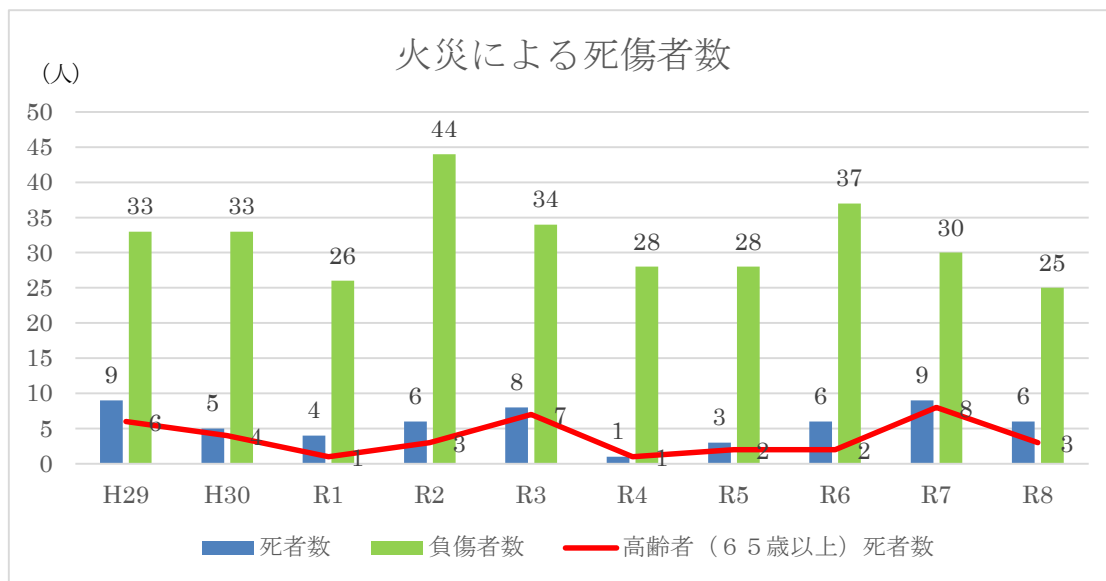
(1) 死者

火災による死者は6人で、前年同期（9人）と比較して3人減少しました。

死者の発生要因としては「逃げ遅れ」が最も多くなっています。年齢別では、65歳以上の高齢者が3人、50歳代が3人でした。

(2) 負傷者

火災による負傷者は25人で、前年同期（30人）と比較して5人減少しました。



5 消防局から市民の皆様へのお願い

(1) 住宅用火災警報器の維持管理を

建物火災の約8割は、焼損面積や損害額が少ない「ぼや」ですが、発見の遅れや周囲への延焼により、大きな火災につながるおそれがあります。

火災による煙又は熱を感知し、居住者に火災を早急に知らせる住宅用火災警報器を適切に設置するとともに、定期的な作動確認をお願いします。また、日頃から整理整頓を心掛け、燃えやすい物を放置しないようにしましょう。

(2) たばこ火災の防止を

たばこ火災の多くは、吸い殻の不適切な処理やポイ捨てなどに起因しています。

- ・吸い殻は確実に消火する
- ・灰皿に吸い殻をためない
- ・ポイ捨てをしない

など、喫煙マナーの徹底をお願いします。

(3) 電気火災対策を

近年、電気火災が増加しています。

- ・電化製品を取扱説明書どおりに使用する
- ・傷んだコードや変形したプラグは使用しない
- ・プラグは確実に差し込んで使用する

など、基本的な対策を徹底してください。



電気火災の実験写真

(4) リチウムイオン電池の適正な取扱いを

モバイルバッテリーやスマートフォンなどに使用されるリチウムイオン電池に起因する火災が増加しています。

消防庁などの関係省庁では、「リチウムイオン電池総合対策ポータルサイト」を開設していますので、購入時や事故防止、適切な廃棄方法の確認に御活用ください。

URL : <https://www.fdma.go.jp/relocation/lithium-ion/>



(5) 火災予防に関する情報

川崎市ホームページ「火災を防ぐ豆知識」を御覧ください。

URL : <https://www.city.kawasaki.jp/bousai/category/291-2-8-9-0-0-0-0-0-0-0.html>



問合せ先

川崎市消防局予防部予防課 小玉

電話（外線）044-223-2701

（内線）48801